

「北海道大好きな旅」

その4

スローフード？ グリーンツーリズム？

食農わくわくねっとわーく北海道

事務局 長尾 道子

スローフード…この言葉に出会ったのは、確か四年以上前だったと記憶している。喫茶店で何気なく見ていた雑誌に特集されていた。ちょうど時を同じくしてグリーンツーリズムという言葉にも出会い、田舎に興味が沸き始めてきたところであった。以来「スローフード」や「グリーンツーリズム」という言葉や動きについてどこか気になるでいた。

昨年の二月にグリーンツーリズムが縁で、スローフードを日本に広く伝えた「スローフードな人生」の著者、島村菜津さんにお会いする機会を得た。短い期間ではあったが、柔らかな口調で話してください

るその内容は私にとつてはとても興味深いものであった。

一〇月には二年に一度の食の祭典「サローネ・デル・グスト」が開催されるとの事。

「ん〜これは一〇月に合わせて、スローフードが生まれた国に行くしかないでしょ！」ということになり…菜津さんを引き合わせてくれた九州の友人に声を掛けて、北海道の知り合いと共にイタリアへ行くことになった。

今回はミラノ出身の友人が私たちのわがままをすべて聞いてコーディネートしてくれました。こうしてアグリツーリズム体験とサローネ見学、イタリア食文化をめぐる見学と取材を兼ねた旅がスタート！



長尾 道子（ながお みちこ）さん

藤女子短期大学卒
平成4年ホクレン入会
平成7年より6年間、PR誌
「Green」の編集業務を担当
現在は「食農わくわくねっとわーく」事務局長

前半はスローフード発祥地、ブラ（人口二万人）から三分、ドリヤーニという小さな小さなムラ（人口二千人）のワイン農家に五泊することになった。

このオーナーのブルーノさんにアグリツーリズムの感想を聞いてみると、「とっても

忙しくなったけど、すごく楽しいよ！ワインのお客さんも招待できるし、君たちみたいになぞわさ来てくれる人もいるし、鳥小屋の有効活用も出たことだしね」と楽しそうに語るのだ。私たちが泊まった建物は鳥小屋だったとは思えないほどにきれいに大変身していた。また、初日は到着が遅かったので特別にママお

手製の夕飯を用意していただく、オーナーとその妹さんをお誘いして、旅仲間のお誕生日を一緒に祝ったり、夜中遅くまでワインとチーズで片言のスペイン語と英語で語り合ったり…あまりに楽しくて、新幹線のように過ぎた五日間だった。

さて、後半は農家レストランやアルバのトリュフ祭り、バルミジャーノ・レッヅジャーノとランブルスコワインが造られている小さな村レッヅオ、徹底した管理と製造法のプロシユートが作られる町バルマ、今年のワインコンテストでナンバーワンになったキャンティ・クラシコの超山奥の小さな小さなワイナリー…その



my friend's

他にピエモンテ州政府の方や
アグリツーリズモ協会、C O
O PやケーブルTVのコー
ディネートまでする雑誌社カ
ンペロ・ロツツ…イタリアの
食や農に関わる人たちに出会
う旅となった。

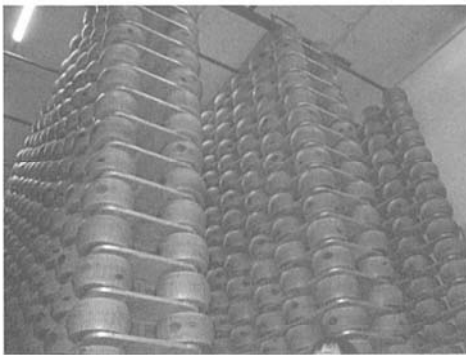
話には聞いていたが、どの
地域も一貫した理念を持ち、

「このチーズにはやっぱりこ
の町で作ってるランブルスコ
が一番合うよ!」とか、パル
マでは「結局、この町で作っ
ている白ワインが一番合う
ね!」などなど。

愚問だと思いつながらも、私
はみなに「もっと高く売ろう
とか、量産しようとか思いま

伝統や誇りを守って
いた。皆一様に「特
産品を生み、育てる
地域の集まりがイタ
リアなのさ」とか「土
を耕すことから文化
が始まっただろう」、
そして「やっぱり、
うちの町が一番
さ!」と話す。パル
ミジャーノの職人は

せんか?」という問いを投げ
かけた。途端にみんな私を半
ば呆れ顔で「けっ!これだけ
ら困るよ」と言い放ち、そし
て一様に「質を下げないため
にも、大量生産はいけないよ。
それにこの町を代表するもの
を作る、私たちはとても名誉
な仕事をしているのだから!
お金じゃないよ、質だ!」と



パルミジャーノ

介し、地元が元気になっ
たのは確かだね。僕らも
ここに住んでいていろん
な人に会えるから、そこ
は彼らは凄いいね」と。

旅を続け、こんな話を
聞いているうちに、安心
院での出来事や北海道で
頑張っている友人の顔が
浮かんできたのだった。

力説された。恥ずかしかった。
今回の旅で、スローフード
の理念はイタリア人は当たり
前のように持っているものな
んだということを実感した。
だから地元の人たちはみな、
スローフード協会のことを
「彼らは当たり前のことをし
ているんだよ」と話す。地元
の人は「ブラの町を世界に紹



プロシュート



プロシュートの説明

二週間のイタリアの旅は、
あつという間に過ぎた。
今回書いてきた「旅」は人
とのつながりから生まれた。
心があつたかくなるものばかり
を紹介してきた。こんな旅
が出来るようになったのも、
グリーンツーリズムやスロー
フードなどの言葉や多くの人
との出逢いがあつたからこそ。
安心院から始まり、十勝、由
仁、そしてイタリア…どの旅
もいろんな人たちからの優し
さや情熱、思いやりの気持ち
をお裾分けしていただいた。
思い起こせば、どれも一貫し
ているのは住んでいる人たち
がその地域での生活を楽しみ、
大切に思い、農の素晴らしさ
や先代の知恵や術に感動し、
守り続けていることだ。
そのお陰で、単に旅と食べ
ることが好きなだけだった私
は、田舎の重要さに気付く、
自分自身を見直し、生きてい
くことを真剣に考え始めた。
私のモットーである「楽しく、
おいしく、心豊かな生活」。こ
れを実践するにはまず、自分
と両親や兄弟、友人や知人、
自然環境…など周りとの関係
をもう一度見直すことから始
まると思っている。
そうするためにも、私はこ
れからも「北海道大好きな
旅」を続けようと思う。そし
て一人でも多くの人に出会
い、一人でも多くの人にそこ
で得た感動を伝えていこう
と思う。